

スキルアップを図ることで余暇活動だけでなくパソコンとの関りを広げていく部活動「パソコン部」の取組

【学校名：千葉県立八千代特別支援学校】

～取組のポイント～

パソコン部の活動にパソコン入力検定の取組を加えることで、活動の目的が明確になり、主体的に取り組むようになった。また、生徒一人一人の実態に応じた練習問題や生活に身近な内容を取り上げた練習問題を活用することで、パソコンへの親しみと活動への意欲が向上した。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

高等部パソコン部部員

(2) 教科・領域

特別活動（部活動）

(3) 目標

パソコン入力検定の取り組みを通して、パソコンへの親しみを高め、主体的に学習に取り組むことができる。

(4) 学習計画

- 4月初旬～ 部活動開始
- 4月中旬～ タイピング、入力練習開始
- 10月～ パソコン入力検定練習
- 12月 パソコン入力検定

2. 実践の内容

今回は、パソコン入力検定をパソコン部に所属する生徒を対象に実施した。パソコン部ではこれまで、パソコン検索を中心に余暇につながる学習として活動を実施してきた。12月のパソコン入力検定受検に向けての活動を中心に据え、活動に取り組んだ。

部活動としての取り組みであるため、生徒個々の実態に大きく差が見られた。そこで、検定の練習問題にすぐに取り組むのではなく、自己紹介のワークシートに入力したり、身近なものを取り上げたりしながら、実態把握をし、文字入力から活動を開始した。入力練習では、初めは、興味を持って活動に取り組めるように、給食の献立を取り上げ、入力練習を行った。単語から練習を始め、徐々に入力文字を増やし、昔話や童話などを資料とし練習に取り組んだ。文字入力に慣れてきたところで、生徒個々の実態を把握し、それぞれの力にあった検定問題を提示し、10月頃から検定問題に取り組むようにした。

検定に向けた活動の導入時に、検定を受検するかどうかを先ず生徒に投げかけ、自分で選び、判断できるようにした。初めは、抵抗のあった生徒も、身近な題材を使った入力練習を行う中で、自信が付き、検定に対して前向きな言葉が聞かれるようになり、最終的にはパソコン部全員が受

検することとなった。

受検級については、問題を見せ、各自で何級を受けたいかを選べるようにした。受検級を自分で決定できるまで、繰り返し検定問題に取り組み、毎回、教師と結果を振り返る場面を設け、次回はどの級に取り組むかを教師と相談しながら、自分で練習計画を考え、受検級を決定できるようにした。

3. 工夫点

- ・受検の有無や検定級など、教師と相談しながら、自己決定をしながら進められるようにした。
- ・検定に向けて、練習問題から取りかかるのではなく、給食の献立や童話といった身近な題材から練習を行った。
- ・入力練習後には必ず、教師がその様子を振り返り、できていた点や次に頑張る点、検定級について話し合う場面を設けた。

4. 実践の評価（成果と課題）

（1）成果

部活動としては、これまでは余暇活動が中心であった。初めは、これまでの「好きなことができる時間」という認識から、検定に向けた取り組みに抵抗感のある生徒もいた。活動の流れを固定することで、自分の好きなこともできるという活動の流れが理解できてくると、前向きに検定問題に取り組む姿が見られるようになった。それに合わせて、初めは離席や退室が多く見られていたが、



入力練習に自信が持てるようになり、「〇級合格したい」という気持ちの高まりに合わせ、部活動自体に参加できる時間を延ばすことができた。そして、検定後には、「検定に合格できた」という喜びから、進んで入力の練習にも取り組めるようになり、余暇としてだけではないパソコンとの関わりを広げることができた。

ローマ字が未学習であった生徒では、初めての事柄に対する強い抵抗感もあり、ローマ字入力に対して拒否的な気持ちが強く見られた。部活動の場面では、簡単な問題から練習を始め、ローマ字表を見ながら入力ができるようにした。練習問題に取り組む中で、徐々に自信もつき、夏休み明けには、「ローマ字マスターしてきました」と自分から報告をしてくるなど、意欲的にローマ字を使ったパソコン入力に取り組めるようになった。そして、検定に合格してからは、「パソコンが得意」という自信につながり、パソコン作業がある際には「僕がやります」と、初めての活動であっても自主的に活動に参加する姿を見ることができた。

今回の取り組みでは、受検級を自分で選び決定することを大切に取り組んできた。毎時間、教師が取り組みの様子を伝え、一緒に振り返りを行った。振り返り際には、取り組んだ結果をプリントアウトし、どこを間違えていたか、あと何点足りないかなど、1つ1つ教師と一緒に具体的に振り返り、次はどうするかを確認していった。その中で、「次は、〇級をやります」と、取り組む級を自分で選ぶことができるようになった。また、この取り組みの中で、「読めない漢字があったから」などと、自分の状況を振り返り、教師に言葉で伝えることができるようになった。そして、受検申込時には、全員が自分で受検する級を決め、検定に挑むことができた。

また、年度当初は、インターネット検索時に毎回教師を呼び、「〇〇と入力してください。」と依頼していた生徒も、検定の入力練習を経て、自分で入力して検索をしようとするようになった。検定練習に取り組む中で、教師に依頼してではなく、自分で入力し検索できることで、自分の興味のあるものをスムーズに検索できるようになり、パソコン部の活動をより楽しみ、意欲的に活動する様子を見ることができた。

(2) 課題・展望

本校では部活動の中での取り組みであったため、時間的な制約が多くあった。特に、2級以上の文書入力に関しては、指導を行うことができなかった。今後も引き続き検定を行っていく上で、文書入力に対する指導をいかに行っていくかが課題である。

また、パソコン入力検定での取り組みで身につけた力を部活動以外で活用する場面を設けることができなかった。今後は、検定で終わるのではなく、販売会の散らし作りを請け負うなど、活用できる場を設け、社会の中で生かすことができるような取り組みも見据えていきたい。

パソコン入力検定については、生徒の実態に合わせ、受検する級を選択できることで、幅広い生徒に対して検定を実施することができる。また、検定の受検という明確な目標を持つことで、自己について振り返ったり、結果を自信につなげたりと、多くの生徒の成長を感じることができた。様々な児童生徒も対象とできる検定であるため、検定への取り組みを部活動だけでなく、いかに広げていくかが課題であるが、今後も継続して検定に向けた活動にパソコン部では取り組み、多くの生徒がパソコンに親しむことができるよう支援していきたい。